

## 森 毅さんの講演要旨

『水のように自由を生きる』



### 賢くなるということ

「教育」というと、みんな子どもの事だと考えるけど「自分がいかに楽しむか」を考えるのが本来の教育。「賢くなる」とは知識を覚える事ではなく、様々な知識を得たり、考え方を学んだりすることにより、ものの見方が変わる... (大袈裟に言うと) 頭の構造が変わることを言い、それは年齢に関係ない。

### 変人の世紀へ

現在の小泉首相と田中長野県知事はどちらも人気がある。小泉首相は右寄りのタカ派、田中知事は左寄りのハト派。二人の共通点は知事や総理にしたら、どちらも「変な人」と言うこと。

二十世紀と二十一世紀を無理やり評価したら、二十世紀は「凡人の世紀」、二十一世紀は「変人の世紀」だと僕は思う。それを象徴しているのが、田中知事や小泉首相です。だから人気がでているんだと思う。

### リベラルとは何か

僕は戦争が終わったとき十七歳だった。当時は子どもはみな軍国少年だった、というのは嘘ですよ。僕みたいな自他ともに認める軟弱非国民もいた。

リベラルとは「両方おっても、いろいろあってまあええやないの」ということだと思います。むしろ心配なのは、今の子どもはみんなそろって愛国少年になるか非国民になるかのどっちかになりがちなこと。子どもたちを見ていると「それぞれおるで」ということに辛抱ならないような印象を受ける。

### 社交性と協調性

「社交性」と「協調性」というのは互いに相反する概念です。「ひとつの文化にいかに溶け込むか」が協調性であるのに対し、社交性とは「異文化とどう付き合うか」です。今の若者を見ていると協調性ばかりで社交性が薄れる傾向にある。国際化の時代に「いろんな仲間と付き合う心=社交性」が下手になり、異文化と付き合う傾向が減るのはよくない。

よく「仲間意識を高めていじめを無くそう」と言うが、あれは矛盾している。いじめは仲間意識が歪むから起こる。姑の嫁いじめがそのいい例。よい集団とはいつでも仲間外れになることができ、いつでも仲間に戻られるような集団をいう。

### 今を生きる

人間はいつでも現在の生き方で評価してほしい。「年を取ったらゆったりできてええでー」と若者に見せてやるのが年寄りの責務だし、「世の中いろいろあるでー」と言い聞かせるのも年寄りの役割。

二十一世紀は何が起こるか分からない時代だから、「いろいろあっても、何とかなるでー」と考える方がいい。現在をどう生きるかで二十年後は決まる。今の若者を見ていると、コース志向(決まった道を歩んだ結果、そうなると思う傾向)がものすごく強い。だが実際には、人間は目指してそうなるのではなく、うろろうした結果、詩人になったり学者になったりした人が多数派ですよ。

### 状況感応型の社会に

二十世紀は「目的追求型」（男味）の社会だった。二十一世紀は「状況感应型」（女味）の社会、つまり状況に応じて柔軟に対応していく社会になると思う。それは多様性の時代でもある。

「男味も女味もいろいろあるで」が二十一世紀のリベラル。「みんなが同じ道をいくことをせんでもいいし、いろいろやるで」というのがいい。

## 対談より

筑紫 私は、小泉さんを総理にしたものは、彼の「男は三度勝負する。ナンテネ」という発言に象徴される部分だと思う。小泉さんは一言で言うと書生っばい。

森 書生っばさとは、永田町の常識とは違うことをやろうとするところ、彼は協調性めいた社交をやっている。小泉首相の自分自身をちょっとひいて見る「ナンテネ」は田中康夫知事で言う「しなやかさ」だろう。

筑紫 変人は思い込みみたいなもので突っ走る危うさも秘めている。  
報道の仕事をしていて怖いと思うのは、最近の世論調査の「90%現象」だ。田中知事の支持率、少年法改正の支持率、成人式の新成人告訴の支持率、小泉首相の支持率、どれもみな90%を超えている。

森 国民は「支持率が90%になったら、こうすべきだ」などとむきななつてはいかん。多数派が得する世の中はよくない。「少数派はおもろいで」という方がよい世の中になる。

## 森 毅さん インタビュー

問 森さんにとって理想のまちとは、どんなまちですか？

あまり理想に凝り固まっても仕方ないで、やっているうちは少なくともよそのまねはせんこと。それぞれの歴史とかキャラクターが有りますからね、それをどう活かすかですけど。ここ日田のまちなんか感じいいですよ。

大きな流れから言うと何処だって否応なしに都市化しますし、流動化しますよ。村という形で固定化するのはたぶん無理です。そこんところをうまく乗り切らんとまずいでしょう。

私は大阪の郊外で育ちました。半世紀前からベッドタウン化してまして、仲の良い友達はしょっちゅう変わりますし、それから私は核家族の独りっ子です。ですから現在の都市化現象を半世紀前から体験しています。その中でコンセプトはと言われても適当にしてみました。リベラルなところもそこから育まれたものかも知れません。

問 文学ではなく、敢えて数学の道に進まれたきっかけは？

僕は無精だからなあ。あの頃は結構数学少年でもありましたし、いろんな文学少年でもありました。数学ができれば理系、外国語ができれば文系、あれは嘘なんです。数学で落第する奴が理系で多かったんです。大学でかっこいいのは理系から文系に行くこと、文系から理系に行くこと、理系から文系に行くことですが、僕は打算的に言うと理系で数学が得意だったから理系なら勉強せんでもいいから楽だったんです。僕なんかええ加減だから、実験の後始末してたら爆発しますよ。しかし数学は紙の上だけですから、一番楽で危険度の少ないのは数学系。まあ数学でも食べへんけど堅気でも食べへんという時代でしたから、さしあたり数学でもしとこか。その程度の話です。

問 若い人へのメッセージ

コース志向が強すぎますね、コースが決まって安心してるとかね。世間は言うでしょ「学校入るときはコースを決める」とね。あんなもんは学校に行って決めたらいいんです。それでなんとかなるのが人生よと。若いときからそんなに決めることないがなあ